

ユニファイドバスケットボール・オブザーバー用記録シート

ユニファイドスポーツー意義のある参加

スペシャルオリンピックスのユニファイドスポーツでは、トレーニングと競技会のため競技チームで知的障害のある人々となない人々を結び付ける。知的障害のある人々はスペシャルオリンピックス・アスリートに分類され、知的障害のない人々はユニファイドパートナーに分類される。世界大会のレベルでは、すべてのユニファイドスポーツは競い合うことを目指している。

ユニファイドスポーツのチームにおいては、意義のある参加という原則を重視し、すべてのメンバーは自分の所属するチームのパフォーマンスに貢献する機会を確実に与えられる必要がある。チームは同程度の年齢と競技能力レベルのプレーヤーで構成しなければならない。これにより、競技能力が高いチームメイトがプレーを支配する可能性を少なくする。2015年世界大会のユニファイド競技会実施手順では、2015年世界大会で質の低いユニファイドスポーツ競技会が行われるリスクを最小限にするための対策が明らかにされる。

競技名： ユニファイドバスケットボール・チーム

競技の実施方法： ユニファイドバスケットボール：各チームは身体的にプレーが可能な3人のアスリートと2人のパートナーで試合を開始しなければならない。試合開始時に最低限の登録人員数を満たせない場合、チームは試合を放棄しなければならない。試合中に急病、負傷、または資格剥奪などによってプレーヤーがプレーできなくなった場合、チーム構成においてパートナーの人数がアスリートの人数を上回らない限り、チームは5人未満でプレーを続行することができる。

オブザーバーの役割： ユニファイドスポーツのオブザーバーは、競技運営スタッフや技術代表を補佐する存在である。ユニファイドスポーツ・チームの客観的なオブザーバーであることが彼らの役割であり、特に意義のある参加がどのような形で実現しているかを観察し記録することに重きを置いている。オブザーバーは競技会に介入してはならず、またプレーヤー、コーチ、審判と対立してはならない。気が付いたことはすべて競技運営スタッフに報告しなければならない。

意義のある参加の原則が守られていない事例：

1. チーム内はコントロールされているが、プレーヤーがボールに触れ、パスやシュート、ドリブルをする機会が一貫してほとんど無い。
2. チームがプレー方法を変えている。特にディビジョニング（予選）と比較し、決勝で個々のプレーヤーの参加の仕方が違う。
3. ウォームアップ中、休憩中、得点して喜んでいる時のチームの様子は、本当にチーム一体となっているか、それともチーム内にサブグループができていないか。例：アスリートのグループとパートナーのグループが別々に固まっている。
4. コーチの選手交代方針—特定のプレーヤーがほとんどベンチに座ったままである。

上記の事例を目にした場合にオブザーバーシートが対処すべきこと：

- プレーヤー、コーチ、審判に近づかないこと
- 観察を続け、一定の行動パターンなのか、それともたまたまの出来事なのかを判断する
- メモ欄に観察したことを記入する
- 好ましくないと思われる行動パターンが特定できるとしたら、技術代表に連絡する

重要な留意事項：

- ✓ プレーヤーによるプレーの支配と意義のある参加については、アスリートとパートナーの両方を対象とする場合もあるし両方とも除外する場合もある。

競技名：ユニファイドバスケットボール・チーム

プレーヤーの氏名（複数可）	
国（分かれば）	
シャツの色	
コメント	

プレーヤーの氏名（複数可）	
国（分かれば）	
シャツの色	
コメント	

プレーヤーの氏名（複数可）	
国（分かれば）	
シャツの色	
コメント	

プレーヤーの氏名（複数可）	
国（分かれば）	
シャツの色	
コメント	